

## 避難所のコロナ拡大に警戒、感染疑われる人や家族ら別室へ

2024/1/9 読売新聞



体調不良を訴える高齢男性を車いすに乗せて運ぶ医療支援のスタッフら（1月9日午後、石川県能登町の町立小木中学校の避難所で）

200人余りが身を寄せている石川県能登町の町立小木中学校の避難所では、新型コロナウイルスなどの感染症への警戒感が高まっている。9日には、感染が疑われる人とその家族ら計14人が、保健室などの4教室に分かれ、他の避難者と離れて過ごした。

医療支援に入っている日本体育大学保健医療学部（救急医療学科）のチームによると、この避難所では数日前から、発熱や喉の痛みなどの症状を訴える避難者が相次ぎ、うち10人程度が、新型コロナウイルスの抗原検査キットで陽性になった。インフルエンザ陽性も1人いたという

同避難所では、体育館に約160人、食堂に約20人、そのほか図書室などにも数人ずつ近隣住民が避難している。感染拡大を防ぐため、陽性者とその家族らについては、他の避難者と離れて過ごしてもらうことにした。同日午後になると、さらに全日本病院協会の医療支援チームや、被災地の保健対策をサポートする災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）も応援に入った。臨時の救護室で発熱患者を診察したり、頻繁に部屋を巡回して顔色や体調を確認したりしていた。今のところ、陽性者も全員軽症だという。

支援に当たっている横田裕行・日体大教授（救急医学）は「コロナも今や5類感染症で、ワクチンを打っていれば過度に恐れる疾患ではなくなった。ただ、避難所には高齢者も多いので、念には念を入れ、感染対策と衛生環境の維持を徹底していくべきだ」と話した。

（医療部 鈴木恵介）